

平成 26 年度(2014 年度) 神戸大学大学院国際文化学研究科博士課程 (前期課程)

言語情報コミュニケーション系領域

感性コミュニケーションコース入学試験問題 (専門科目)

(注) 問題用紙 4 枚、解答用紙 2 枚、下書き用紙 1 枚

それぞれの問題の解答はそれぞれ指定された解答用紙に記入すること

言語系は A、心理系は B です。

選択していない系の問題を解答した場合はすべて無効となります。

専門科目 A (言語系)

次の小問 (1)、(2) の両方に解答しなさい。(1) の解答を 1 枚目の解答用紙に、(2) の解答を 2 枚目の解答用紙に書きなさい。

(1) 言い誤り (スピーチエラー) について具体例を挙げて説明しなさい。

(2) 言語の種類について述べなさい。

専門科目 B (心理系)

以下の問題Ⅰ～問題Ⅴに答えなさい。

問題Ⅰ～問題Ⅲまでの解答を 1 枚目の解答用紙に書き、問題Ⅳと問題Ⅴの解答は 2 枚目の解答用紙に書きなさい。

問題Ⅰ 以下の語群の中から 5 つを選択し、それらの語について説明しなさい。

- A) ゲシュタルト心理学
- B) 帰属理論
- C) S D 法
- D) プライミング効果
- E) 長期記憶
- F) スキーマ
- G) 前頭葉
- H) 海馬
- I) ステレオタイプ
- J) 錯視

問題Ⅱ 次のそれぞれの統計的方法は心理学研究によく使用される。それぞれどのような方法か、また、どういうときに使用するか具体例をあげて説明しなさい。(各 2～3 行)

- 1) 相関係数を用いた分析
- 2) t 検定
- 3) χ^2 検定
- 4) 一元配置分散分析
- 5) 因子分析

問題Ⅲ 次の研究事例は心理学研究として、どこに問題があるか。それぞれ 3 行以内で説明しなさい。

- 1) 小学生を対象にテレビの視聴時間と学校の成績を調べたところ、視聴時間が長いほど成績が悪くなる傾向があることがわかった。この結果をもとに、テレビの視聴時間が小学生の学習に悪い影響を及ぼすと結論した。
- 2) 政府のある政策について一般の人々の意見を知るために、ある政党が開催したその政策に対する反対集会の出席者にインタビューをした。

問題Ⅳ 下に示すのは Tomasello et al. (1993) の実験の説明とグラフである (Tomasello & Call 1997 *Primate Cognition* より一部改変)。本文とグラフを参考に次の問いに答えなさい。

- 1) このグラフはどのような実験の結果を表しているか述べなさい。
- 2) 本文中の括弧 A・B に入る単語をグラフ中の単語から選んで書きなさい。また C には “were” と “were not” のどちらが入るか書きなさい。
- 3) このグラフから何が言えるか述べなさい。

(問題文省略)

問題Ⅴ 人間には他者の「こころ」がどのような状態であるのかを推しはかり理解する能力が備わっている。この能力は社会集団の中で生活をする上で重要な役割を担っていると考えられている。人間の子どもは何歳ごろから他者の「こころ」の状態を理解することができるのだろうか。この問題を調べるためにはどのような課題を用いてどのような対象を比較すればよいだろうか。研究計画を考え、できるだけ詳しく述べよ。